

夢 追 い 人

アメリカンレザークラフト「工房ミンクル」

岡 秀代さん



お菓子の部屋のように。

その部屋は革製品であふれている。まるで皮でできたお菓子の部屋のように。

そこは、大川市三丸にある、アメリカンレザークラフト「工房ミンクル」の展示室。

テーブル、いす、時計、温度計、小物入れ、壁掛け、靴、ハンドバッグ、財布、皮の絵画等々、全て手作りの革製品である。

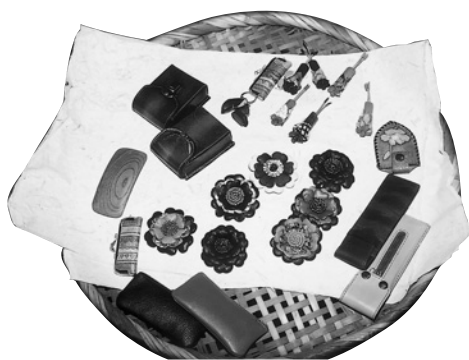
製作したのは、岡秀代さん。屈託のない笑顔と素朴な雰囲気を持った方だ。岡さんは、平成8年に倉庫を改造して工房と展示室を造り、「工房ミンクル」を始めた。

この仕事に入ったきっかけは何だったのだろうか。OL時代からレザークラフトに興味をもっていたが、平成4年からは、全国的にも有名な教室「トニ



ーズクラフト」で学び始めた。それ以降本格的に革製品製作に関わるようになったそうだ。

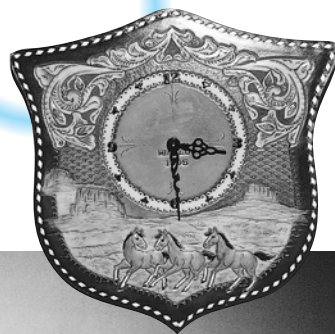
岡さんが手がける作品の特徴は、数十種類の特製の釘を木槌でたたいて、皮に浮き彫りを付ける工法だ。そして、モダンで、唐草模様をあしらったシックなデザイン。全ての作品には必ずどこかに唐草模様のデザインが入っている。それにも言えない深みのある色。





その部屋は革製品であふれている。

まるで皮でできた



高級感がある。

「ああでもない、こうでもない、今度の作品はどんな形、どんな色や材質の組み合わせにしようか、そう考えるのがとても楽しいですね。興味が尽きませんね。70歳になっても現役でいたいと思いますよ。」(笑い)

制作に多くの時間を費やす。「と、いつても、工房にこもりっぱ

なしはいやですね。」ともきっぱり語る。実は週に2回ママさんバレーを楽しんでいる。のびのび生きることが好きだ。

これからの夢は何だろうか。「1年に二つは大作といえる作品を作っていきたいですね。それに自分の好きなモノを作り続けること。それがお客様に喜んでもらえれば一番イイのですけれど・・・」(笑い)

11月11日から開かれる大川信金ロビー展に岡さんの作品が展示される。皆さんも足を運ばれてみてはいかがですか。